



竹富町波照間での第1回ゆいまーるワークショップ

一般社団法人地域医療・福祉研究所第7回社員総会決定
2020年度のまとめと2021年度事業計画
(第一次5カ年計画(2020～2024) 2021年改定版を含む)

～ ダイジェスト版 ～

ARSVITA vision

なりわい福祉のまちづくりで地域共生社会を創る

2021 ARSVITA Businessplan

**「なりわい福祉論」の普及と竹富町、沖縄県の離島での
「なりわい福祉事業」支援、協同組合への「ゆいまーる
プログラム」支援で社会的役割を発揮する**



2021年6月29日

文書番号：2021-002

EXECUTIVE SUMMARY

2025 vision slogan:

新型コロナ危機を乗り越え、「なりわい福祉論」で住み続けられる地域を創る！

ARSVITA第一次5カ年計画のGoal

新型コロナ危機に対応する新しい医療・福祉のあり方を提起するとともに、竹富町をはじめとした離島・僻地での「なりわい福祉のまちづくり」を支援する

ARSVITA第一次5カ年計画のVision & Mission

Vision

なりわい福祉のまちづくりで地域共生社会を創る

Mission

「なりわい福祉論」を確立し、竹富町をはじめとした離島・僻地の住民のなりわい福祉のまちづくりを支援するとともに、協同組合にゆいまーるプログラム普及して地域の医療・福祉を守る。

第一次5カ年計画の重要成功要因

1. ARSVITA八重山事務所を開設します。(2020年度事業) **達成！**
2. なりわい(生業)福祉論の離島・僻地モデルを完成させます。(2021年度事業)
3. ゆいまーるプログラムを協同組合や社会福祉協議会の活動に応用します。(2021年度事業)
4. 竹富町で生なりわい福祉事業を開始し、モデルを複数の自治体に広げます。(2022年度事業)
5. 医療・福祉事業者のアフターコロナの事業を支援します。(2022年度事業)
6. 複数の自治体の高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定を支援します。(2023年度事業)
7. なりわい福祉のまちづくりをすすめる自治体や団体でallianceを創ります。(2024年度事業)

2021年度の事業計画(案)

1. なりわい(生業)福祉論をまとめ発表します。(2021年9月)
2. 竹富町でのゆいまーるプログラムを進めます。
 - ① ゆいまーるワークショップ in 波照間 (2021年4月～9月)
 - ② ゆいまーるワークショップ in 西表東部(2021年9月～12月)
3. なりわい福祉のまちづくりを沖縄県内の自治体に広げます。(2021年9月～)
4. ゆいまーるプログラムの協同組合版をまとめ、医療福祉生協に提案します。(2021年11月～)
5. 医療機関・介護事業所のアフターコロナの事業経営戦略策定を支援します。(2021年9月～)

ARSVITA会員の皆様へ

共に「なりわい福祉論」の研究をすすめ、新型コロナ危機の対応型の新たな医療・福祉のあり方を研究・開発して普及するとともに、「なりわい福祉のまちづくり」の実践モデルとして「ゆいまーるプログラム」の開発と普及に取り組みましょう。

I. 第1号議案 2020年度活動のまとめ

ARSVITAは、設立以来6年間、地域に住み続けるために必要な医療・福祉を住民自身が主体的につくりあげるためのしくみや実践の方法論を研究し、離島や協同組合の活動に関与してきました。

2020年度は、竹富町第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画の支援業務、それに伴う在宅介護実態調査を受託しました。自治体の介護保険事業計画の策定作業への関与は初めての業務でしたが、高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画が議会で承認され、2021年度からの高齢者福祉施策や介護保険料に反映されています。

さらにARSVITAのまちづくりの理論的到達点である「なりわい（生業）福祉論」の研究を発展させ、そのモデルとして竹富町黒島地域で「ゆいまーるスタートアップ プログラム」を開発し、実施しました。この事業は、「令和2年度竹富町地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築」事業として竹富町福祉支援課との協働で行いました。

また、会員法人との共同研究として生活協同組合・消費者住宅センターの「お家の困ったことアンケート調査2020」を実施し、新型コロナウイルス感染症拡大（以下コロナ）の下での住宅要求の分析などを行い、生活協同組合・消費者住宅センターの運動や事業経営への貢献を行いました。

一方、コロナの影響で、研究会やセミナーの開催や視察研修、講師派遣、リモートセミナーやWEBを活用したコンサルティングなどは行えませんでした。

事務局会議などはZoomやLINEを活用して行いました。

(1) 主なとりくみ

① 調査研究&受託事業（2015～）

2015年度	南大東村福祉民生課 なにわ保健生活協同組合	地域共生社会づくりアンケート調査 医療・福祉マネジメント
2016年度	南大東村福祉民生課 南大東村福祉民生課 自主研究	地域共生社会づくりワークショップ 高齢者福祉・介護計画策定 診療所生協法人経営実績調査
2017年度	南大東村福祉民生課 けいはん医療生活協同組合 自主研究	農福連携 地産地消視察（北海道） 幹部学校 診療所生協法人経営実績調査
2018年度	竹富町福祉支援課 けいはん医療生活協同組合 福祉クラブ生活協同組合 自主研究	ばいぬ島共生意識・要求調査 幹部学校 研修旅行 施設建設推進プロジェクト 診療所生協法人経営実績調査
2019年度	竹富町福祉支援課 竹富町福祉支援課 会員法人共同研究 会員法人共同研究 自主研究 自主研究 自主研究	ゆいまーるワークショップ（西表西部、黒島） 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 le co-op 「お家の困ったことアンケート調査」 社会福祉法人亀田郷芦沼会 「まちづくりアンケート」集計・分析 診療所生協法人経営実績調査
2020年度	八重山事務所開設 竹富町福祉支援課	9月開設 〒907-0024 石垣市新川2373-21 1-D ゆいまーるスタートアップ プログラム （西表西部、黒島）

竹富町福祉支援課

竹富町第9次高齢者保健福祉計画及び

第8期介護保険事業計画策定支援

竹富町福祉支援課

在宅介護実態調査結果分析

会員法人共同研究

le co-op「お家の困ったことアンケート調査
2020」

自主研究

「なりわい（生業）福祉論」

《2020年度 調査活動成果物》

成果物名	内容	完成時期
竹富町第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画	同計画策定委員会の答申書作成支援、3ヵ年の高齢者福祉政策と介護保険事業計画、介護保険料などを記載した報告書の作成	2021年3月
竹富町在宅介護実態調査	竹富町福祉支援課が実施した同調査の分析・報告書の作成	2021年3月
le co-op「お家の困ったことアンケート調査2020」	生活協同組合・消費者住宅センターの組合員の住まいに関する意識・要求調査 2020年度に続く調査報告の作成	2021年3月

② 教育研修事業

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
講師活動	15	47	18	5	4	1	90
セミナー・研修会	2	2	1	3	0	0	8

③ 出版事業

分類	書籍名	発行年月日	発行所	定価(円)
ブックレット1	「国の『地方創生』と社会保障の行方」	2015年8月	ARSVITA	500(税込)
新書	自分らしく生きるために憲法と社会保障を学ぼう	2015年10月	萌文社	500(税別)
A4	南大東村高齢者要求調査結果	2016年1月	ARSVITA	非売品
A4	南大東島に共生ホームをつくろう！	2016年5月	萌文社	3,500(税別)
ブックレット2	これからの日本と社会保障、そして私たち	2017年7月	あけび書房	1,000(税別)
A4	ぱいぬ島共生意識・要求調査報告書	2019年4月	竹富町	非売品

③ 広報活動

- ・ ホームページ 2015年11月に開設
- ・ Facebook 2016年 1月に開設
- ・ 会員向けメールマガジン 2016年 2月から発行 122号（2021年6月14日現在）

(2) 組織と2020年度決算及び2021年度予算

① 会員の状況

ARSVITAは、団体会員（年会費10万円）と個人会員（年会費5,000円）で構成されています。それぞれ議決権のある正会員と議決権を持たない賛助会員があります。

個人会員 51 名

団体会員 7 法人

② 正味財産増減計算書 2020年度決算及び2021年度予算

ARSVITAは、非営利型の一般社団法人ですので正味財産増減計算書で損益を表します。
2020年度第6期の正味財産増減計算書は以下の通りです。

期	6期決算 2020.4.1～2021.3.31	7期予算 2021.4.1～2022.3.31
経常収益	9,352,552	10,860,007
受取会費	720,000	970,000
受託事業収益	6,571,330	9,600,000
その他事業収益	61,215	290,000
受取補助金等	2,000,007	7
経常費用	8,589,253	8,651,710
役員報酬	750,000	720,000
給与手当	2,400,000	2,400,000
旅費交通費	1,094,651	1,600,000
その他経費	4,374,602	3,931,710
当期一般正味 財産増減額	763,299	2,208,297

(3) 2020年度末到達点評価及び教訓

【到達点評価】

- ① ARSVITAは、設立以来主に離島自治体と協同組合を対象に住民主体の医療・福祉事業の研究と実践への関与を行ってきました。離島での地域共生のまちづくりの調査・研究と実践への共感が広がり、受託事業に繋がっています。
- ② この6年間の離島での実践をもとに離島や中山間地のまちづくりの基本となるARSVITAの理論として「なりわい福祉論」をまとめました。またなりわい（生業）福祉論に基づく実践として「なりわい福祉のまちづくり」を体系化しました。
- ③ 2020年度は、竹富町での介護保険料の策定を含む竹富町第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画を受託しました。また「なりわい福祉のまちづくり」の実践として竹富町での「ゆいまーるプログラム」を提案し、「令和2年度竹富町地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築」事業として実施できました。2018年度以来の同町でのARSVITAの活動が評価された結果だと考えます。とりわけ地域に密着した活動や地域住民との関係性が受託の要因になりました。
- ④ 協同組合との関連では、生活協同組合・消費者住宅センターの「お家の困ったことアンケート2021」を受託し、コロナ下での住民の住まいに対する要望を掴む共同研究として取り組みました。しかしそれ以外には業務受託がなく、役割発揮は限定的でした。
- ⑤ 2020年度は、竹富町からの事業委託などで収益を確保しました。しかし計画通り事業高が伸びず、剰余は事業計画に達していません。また本年度は、コロナ対策の「持続化給付金」200万円を申請し、給付されました。

- ⑥会員数が伸びず、社会的な認知が広がっていません。研究員登録も少なく、研究所の規模が小さいままです。
- ⑦コロナ下でも竹富町からの受託事業を遂行するために、2020年9月に沖縄県石垣市にARSVITA八重山事務所を開設しました。八重山事務所にほぼ常駐することによって受託事業を遂行することができました。

【今後への教訓】

- ①ARSVITAの「なりわい福祉論」を書籍化し社会的認知を広げるとともに、「なりわい福祉のまちづくり」を沖縄県の離島自治体などにプロポーザルすることで受託事業を増やす必要があります。
- ②協同組合への支援は「なりわい福祉のまちづくり」の普及を中心にする必要があります。経営関連のコンサルティングの個別プロポーザルはできていません。
- ③今後は、ARSVITAのなりわい（生業）福祉論やなりわい福祉のまちづくりなどの理論や活動、研究内容を八重山地区や沖縄県の医療機関や福祉法人、社会福祉協議会などに情報提供・普及することを重視します。
- ④ブログやホームページなどによる社会的発信を抜本的に強化し、研究成果や理論・実践について積極的に社会的な評価を受けることが大事です。
- ⑤会員増やしを重視し、医療・福祉分野の研究員や協力者を増やして活動領域を広げる必要があります。



II. 第2号議案 2021年度事業計画

(1) 2021年度の情勢予測

(1) コロナ拡大は収まらず、コロナ対応型社会の模索が始まると考えられます。

- ① ワクチン接種が大きな課題となっています。接種が進めばアフターコロナを模索する動きが活発化すると思われます。
- ② 「オンライン」、「リモート」、「Web」等を活用した事業マネジメントが必須となります。
- ③ 非接触型の医療・福祉事業運営やフィールドワーク方法論の工夫が必要となります。

(2) 地域の医療・介護の崩壊が進む。

- ① 患者減少、医療提供体制の縮小などで補助金や緊急融資で持ち堪えている医療事業の経営問題が顕在化し始めると考えられます。
- ② 介護事業では、利用者確保が課題となり小規模事業の困難が続きます。
- ③ 人手不足、患者減、利用者減が平行的に進み、本格的な事業運営の改善、人事政策の転換が求められます。
- ④ 自治体では歳入減、コロナ対策の歳出増、人材不足等から社会保障機能が低下し、外部の支援が必要な状況が広がると考えられます。

(3) 新型コロナ下で雇用や暮らしの危機が広がり、地域全体に対する生活支援が求められます。

- ① 雇用創出や収入確保、医療・福祉サービス、教育機会、住宅、交通等の確保がますます切実な要求になります。
- ② 格差や不平等の解消、環境保全、再生可能エネルギーなどの課題が多くの人に関心事になります。

(2) 2021年度の重点項目

(1) 市民参画型産業福祉論（なりわい福祉論）を研究し、提唱します。同時に全国的な医療・福祉の人材交流・確保・育成事業を開始します。

(2) ゆいまーるプロジェクトを提案して医療・福祉（社協を含む）法人の活動を支援します。

総 会 資 料

広報たけとみちょうに掲載された「ゆいまーるプログラム」の記事

ゆいまーるプログラムの取り組みは、その都度竹富町の広報誌「広報たけとみちょう」に掲載されている。

ぱいぬ島共生意識・要求調査の様子は2019年5月号～9月・10月合併号まで5回、

ゆいまーるワークショップ in 波照間と黒島の様子は、2019年12月号～2020年3月号までの4回、



島時間、島自慢 ～わったー島のオンリーワン～

ゆいまーるワークショップ in 黒島

**きれいで、豊かに住み続けられる黒島を
みんなでつくる取り組みがスタートしました。**

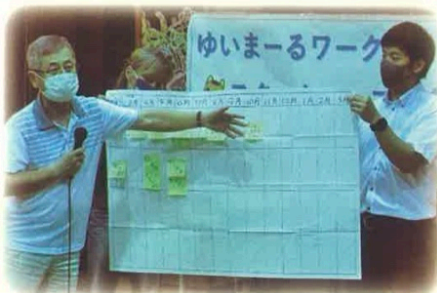
黒島では昨年度実施した「ゆいまーるワークショップin黒島」で作成した「黒島に住み続けるための取り組み実行計画」を実践するために3つのチームをつくり活動しています。3月16日に開催された「第3回スタートアップ集会」ではそれぞれの「アクションプラン」を作成し、発表しました。

3 つ の チ ーム	黒島学園 地域住民の世代間交流・学びや健康づくりの場を創造する	笑い（ほらい）ティー 島の人たちが孤立することなく、集まって笑顔になる場所（サロン）をつくる	BLUE HEART Project 黒島の海岸を美しくするためのごみ処理の方法、しくみをつくる
-----------------------------------	---	--	--

- 「**黒島学園**」は、4月19日に“新型コロナウイルス勉強会”を企画することを決定し、黒島診療所の松波医師を中心に準備が進んでいます。今後も勉強会などと健康づくりの取り組みを進める事を決定。島民へのアンケート調査も予定しています。
- 「**笑いティー**」は毎週火曜日の「笑いティーサロン」が定着しており、お祭りのDVDを見ながら楽しくゆんたくしたり、民具を作ったりして自由に過ごしています。今後の運営体制の相談や、サロンの補助金を申請するための準備、今年度の月別イベントなどを検討しました。
- 「**BLUE HEART**」は、伊古棧橋に「漂着ごみ箱」の設置を決定。会議から2日後の3月18日から試用期間としてさっそく運用を始めました。住民へは公民館だよりや防災無線、ポスターなどで周知することになっています。



資料を持ち寄ったチーム会議



アクションプランの発表

参加者からは、「とても楽しかったです。時間が足りない、続けて開催してほしいです。」「美しい海をいつでも見られますように。」という感想が寄せられました。今後はさらに取り組みを進め、広く島民のみなさんに知っていただくために「黒島ゆいまーるフェスタ」と称して各取り組みの報告会を開催する予定です。

広報たけとみちょう2021年5月号



友え愛♥ゆんたく会報

島時間、島自慢

～バガスマのオンリーワン～



Vol.7



笑い (バライ) ティーサロン

お茶にしよう

ゆいまーるワークショップ in 黒島

「のんびりいろいろできるサロンづくり」事業の実行グループは企画書を作成し本格的に事業を開始することになりました。グループの皆さんが一丸となり、考えてつくって・・・

笑い (バライ) ティーサロン 完成！

サロンの「笑い (バライ) ティー」とは、黒島の方で「笑い」のことを「バライ」といい、ティーはお茶。バライエティーな楽しい時間を！という意味です。



体操



アダンの根で指ハブづくり



縄ないの練習



トレーニング器具もあります♪

サロンではユンタク、体操、物作りや読書など、それぞれがやりたいことをして過ごすそうです♪

これまで黒島にはサロンのような高齢者が気軽に集える場所がありませんでした。サロン活動を通して社会参加や孤立防止につなげ、やりたいことを楽しくやれるようにと住民自らが運営しています。

ゆいまーるスタート

広報たけとみちょう

2021年3月4月合併号

アップ プログラムの様子は、2021年2月号～6月号までの4回掲載されてる。

9

広報たけとみちょう
2021年5月号

BLUE HEART project の取り組み



黒島ゆいまーるワークショップより、住民のニーズからつくられた漂着ゴミの回収システムをつくるチームです。

「いつでも、だれでも、365日ゴミ拾い」ができるようにして、黒島の海を綺麗に保つことを目指しています😊 チームメンバーは、漂着ゴミの回収方法として「拾い箱」のシステムを学ぶため、与論島と会議をしたり、拾い箱の設置や周知の仕方のアイデアを出し合い、試行錯誤・・・！住民だけでなく観光客にも参加してもらう黒島の「拾い箱」竹富町役場の世界遺産推進室や町民課などの関係部署と連携し活動を進めています。



漂着ゴミ専用





♡型の黒島の海のBLUEをみんなで見よう！

笑いティースalonは先月号で紹介しています。ぜひあわせてご覧ください😊

黒島学園は、4/19に黒島診療所の松波先生による「新型コロナウイルス勉強会」を開催しました！次号は黒島学園の取り組みや勉強会の様子を掲載します♪

9